

そよかぜ

優秀賞・100号おめでとう！ 羽島市民病院 看護部長 中川千草

病院広報誌“そよかぜ”100号節目の記念すべき号で、素敵なお知らせができることがうれしいです。10月29日に岐阜県病院協会医学会が下呂市で開催され、さまざまな職種(医師、看護師、セラピスト)等が自施設での研究や実践報告を行いました。コロナ禍では医学学会等、現地対面参加ができなかったのですが、令和5年5月感染症法改正後、さまざまな学会が各地で行われるようになりました。当院からは、専門職5人が発表し、その中で3名が優秀演題賞をいただきました。加藤ひとみベテラン看護師、岡村真理子がん性疼痛認定看護師、放射線科のエースである森友宏放射線技師の3名です。学会発表を行うには、コツコツと自分のしごとに疑問をもつという姿勢とまとめるエネルギーが必要になります。日ごろのしごとにひたむきな気持ちで向き合っているからこそデキルことです。学会や研修など参加後、「次もチャレンジしてしごとに活かしたい」と話を聴くと、羽島市民病院の職員は頑張っている！と感じ、私の元気の源にもなります。そして、そよかぜ100号発行！ふれあいプロジェクト委員会メンバーの、地道な活動の賜物(たまもの)です。この職員の頑張りが、地域の皆さんの安心につながるよう、情報発信や新たな学びほぐしを進めていきます。

